

【刊夕日二月一十】刊日

# 常磐毎日新聞

原5段郵 錢5金月ケ1 錢2金部1 價之  
 錢5金行 詰字21 號5 料告廣  
 刊休日 祭の日 祭 曜日  
 活文 崎川 人刷印人編編 行等  
 五三町橋長町平郡城石島編  
 番〇三六話電社聞新日每警常 所行發  
 社會式株刷印日每警常 所刷印

## 成道より出山へ (一)

眞 繼 雲 山

菩薩となるのには布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧といふ六つの橋を渡らねばならぬ、これを六波羅密譯して六度といふ、波羅密とは彼岸であり彼方の悟りの岸に到る方法といふ程の心である。

布施とは施し恵みのことであり、持戒とは戒をたもちて不善に染まぬことであり、忍辱とは辱しめを辱びこらへることであり、精進とは努力奮闘のことである以上の五つの行いを清く明らかに正智を基として行へといふのが智慧である。

若しそれが智慧のない五つの行ひたるに於ては、施しは懶惰人の製造となり、持戒は無駄骨となり、忍辱は恥知らずとなり、精進は馬車馬となり、禪定は死佛となる翻つて、さて現在のは何うであるかと顧みるに私布施の心も大いにある、但し出家同然の事として金を施し得ぬは是非もないが、その代り文書を以て法を施してゐるつもりである、辱

ぬ道理。(續)

## 綴り方

秋の田圃

平第一校 岡部 恒雄

秋の田圃、黄色したいね遠く見える瓦斯會社、尼子橋、水の流れる新川、空は夕やけ、町は電氣、すし風がそよ〜と吹く、なんともいへない、山には木が並んでゐる、遠くにあみをもつた人が見える、たぶんすくひをしてゐるのだらう。

電氣もついて、かやいてゐる、もうごはんだからかいろう。

秋の田圃はきれいだな。

カクテル  
 17キタビナン352  
 レストラン

### 貸切は...

セダン揃ひで  
 貸切専門の  
 昭和タクシーへ

電話 三四三三

### 外科

専門線 X  
 上田外科醫院

平町南町  
 電話二一九番

### 炭石

ナールほど、是レハ良イ石炭ダ  
 良イ石炭ダト云フ事ハ何時モ  
 聞イテ居タガ!

此レ程良イ石炭トハ  
 思ハンカツタ

品ガ良ク  
 値ガ安ク  
 經濟的ニハ正ニ  
 百パーセントダ

モシ〜電話二三七番デスカ  
 早く一俵御届ケ下サイ  
 平 停車場前

阿部石炭商店

◇配達ハ一俵ヨリ致シマス

### 磐城名産

鯉節と  
 鹽から

魚問屋

最優最大日本生命代理店  
 志 賀 盛 榮  
 平四丁目電二二三番

### 冬服

紺色柄物... 三ッ揃... 拾貳圓  
 最新柄... 三ッ揃... 拾三圓五十錢  
 スコッチ... 三ッ揃... 拾三圓五十錢  
 最上紺黒... 三ッ揃... 拾六圓五十錢  
 サーツ... 三ッ揃... 拾九圓

高級品  
 ウィンズレット... 三ッ揃... 拾九圓

平町正札堂洋服店 電四三六

### 時計

召すなら  
 タイラの  
 精幸堂

向店車動自チクキ路小橋橋町平

常信用と責任ある良品廉價

月曜言論

紙齡九歲

眞に地方の公器として恥しからぬ郷土新聞を創刊した大願望に依つて本紙が孤々の聲を擧げたのは大正十二年の十一月一日であつた、即ち昨日を以つて本紙は九歳の紙齡を數ふるに至つたのである

當時の發刊の辭に於ても闡明せるが如く、本紙の經營には文字通りの一社一人主義を標榜し、大膽にも唯單に余一個の微力を以つてひたすら社業の進展に精進した、幸ひにして讀者各位の絶大なる同情と後援は、本紙の育成に盤石の強味を加へしめ、いさゝかも社業に蹉跌を來すが如き難關に逢着する事なく今日を迎ふるに至つた

當時の貧弱極りなき本紙を今繰り擧げて見るに當り汗顔に耐えざるもの多きに徴し初めて此の微弱なる弊紙を御購讀賜はりし御高恩の深甚なるを一層痛切に感ぜざるを得ない、初號當時の愛讀者名簿が唯一の社寶として余の篋底深く藏せられたつゝあるゆゑんは茲にあるのである

創刊當時に於ては余唯一人が社僕としてあらゆる苦闘を續けて居たのであるが社業の漸進と共に社同人の

數は増し、今日は本紙製作の主腦として編輯營業兩方面に協力する者四名、其他の從業員を合すれば實に廿餘名が、或る者は智能となり或る者は手足となつて日夜たゆまざる健闘を續けて居る

斯く社同人の數は増加したが依然として一社一人主義に變りなく、一同協力一致、長短相補つて恰も一人の人格を築き、讀者諸君への寄與貢獻に萬全の誠意を披瀝せん事に獅子奮迅の勢ひを以つて押進んで居る

在滿勇士へ

兒童から慰問狀

石城教育部會の席上で 曾我會長が語る

滿洲の野には正に嚴寒が襲來する、然も我が精銳の將卒はよく此の寒さに耐えて逃亡兵や兇匪の出沒に備え

身命を、故國に獻げて警戒の任に當り我國の特殊權益と在滿邦人の生命財産を擁護して居る、此の盡忠の士を慰むる唯一のものは故國よりの便りである、我が將卒は陣中に在つて鶴首しつゝ故國の書信を待ち受けて居る、殊に本紙に所載した平町南町

出身兵

の佐藤武君が寄せられた便りにも見える如く夫れが無邪氣な子供達の手によつて赤誠の披瀝されてある書狀であつた場合

九歳を迎へての今日、諸設備諸機關は元と較べものならぬ程度の進歩を遂げて居るが理想の彼岸に到達すべき迄には未だ々々前途がある、何卒讀者各位に於かれては、他日の飛躍を前提として、今日の小成に甘んぜざる本社が幾多抱藏せる其の計劃を、本紙の改善に著々實現せんとする意氣を嘉せられ、今後も相變るなき御支持を御聲援をたれ賜りよりよき報導機關顯現の上に御高配あらん事を衷心より切願して已まざる次第である。(二日記、川崎生)

等、將卒は躍り上つて喜ぶ是れが爲めに本郡に於ても各小學校の兒童より慰問狀を贈るべく郡教育部會長である曾我平第一小學校長は来る八日開會される同會の總會席上議事として此の件を滿場に語り兒童の書信をして在滿勇士への慰問の使節たらしめる事となつた

貯水タンク 近々竣工 江名町で設備

石城郡江名消防組では昨年防火設備の爲め同町北町地内へ貯水タンクを設備した

處成績良好であつた爲め今年十月二十日より南町郵便局前に長さ十八尺幅六尺深さ六尺の貯水タンクを増設すべく同組員總出を以て目下工事中であるが近々竣工する筈

二百の團員並ぶ 美しさのパレード

盛況裡に終る

平町女子青年團總會は今日午後一時から平第二校講堂にて開かれたが來會者三百名近くあり先づ副團長曾我和嘉夫人の開辭に次ぎ一同起立、國歌合唱令旨奉讀(佐藤團長)續いて團長の挨拶後、橋本蛭田兩幹事から會務の報告あつて後女子青年團發展に關し團員相互間に談話あり種々意見の開陳などで一切り大賑ひであつたが今年初めての試みの團歌練習後大江スミ子女史の「私共は何のために生きていますか」と題する一場の講演あつて午後四時盛會裡に散會した

あすは婦人會總會

『婦人の使命』大江女史 及記念撮影や映畫上映

明日午前十時から明治節の佳辰を卜し平第一小學校講堂に開かれる平町婦人會總會は會員約五百名の來會豫定で頗る盛會を呈するであらうが先づ伏見總理の開會の辭に次いで役員から會務の報告あつて後會員門傳トミノ同會我和嘉同清野キヨの諸夫人から「家庭生活改善に就いて」の實験談があり終つて一同晝食休憩の後「婦人の使命」と題する家政學院長大江スミ子女史の講演に移り最後に記念撮影

養蠶實行役員

石城郡の養蠶實行組合法による組合創立總會は昨日午前九時より平町團體事務所にて開催左の如く役員を決定した

組合長酒井猶次、副組合長高萩正一、評議員芳賀虎、蛭田安平、志賀直哉、本間武、白井菊雄

永山久助、植田万次郎、縣代議員和田甚内、綠川義隆、豫備員藁谷藤太郎、柳田龜吉

木炭副組合長 千葉縣に招聘

濱三郡木炭同業組合の副組合長草野米彌氏は明日より一週間千葉市に於いて開催される千葉縣木炭同業聯合會主催の木炭包袋改良講師として招聘されたので本日午前八時四十五分平發列

滿洲より

公主嶺農事試驗場 技師 村松 榮 拜啓時下秋も深く冷氣骨に徹するの候益々御清祥奉賀候、さて今回は『滿洲土産談』御贈惠被下厚く御禮申上候、早速拜讀に及ぶ者にも尙觀察し得ざる處を縦横に御執筆なされ誠に感服仕り候、内地殊に東北地方にては滿洲事情に疎なる感ある時に當り貴著によつて如何ばかり啓發する處多きか思ひ餘る處有之候、今や此の滿洲も積年の懸案を解せんとし忠勇なる我が軍の鮮血を以つて此の地の草木を染めたるの秋在滿日本人は勿論内地人も非常の決心を必要とするものと愚考せられ申候先づは御禮迄 敬具

平町人事

回出生

△大町一七 當時石城郡好間村大字好間村大谷雄一氏長女一江 △大町三六 當時大連市西通七八金子甚藏氏二男富重 △久保町四 猪俣元氏三男昌三

回婚

△平町大町一七 當時石城郡好間村字上好間大谷雄一(三四)新湯縣中蒲原郡新美村字小口 岡島ツセ (二四)

回死

△一丁目一七 佐藤アキ(六) △長崎町五二 小沼正一郎(二二) △彌生町四二 藤田與三郎(五五)

湯本上水道の 鐵管理没着手

石城郡湯本町における上水道敷設工事は着々進行昨日から内郷村綴地内の配水池より湯本町綴地に至る七百七十間の鐵管理設に着手したが同區間の工事は遅くも十二月末日までに完成の豫定であると

往來

△白井一郎氏 一日午前十四時四十二分小名濱行即日歸平 △大嶺辯護士 同右 △比佐賢司氏 同日午前八時五十分三春行 △叶多清氏 同日午前十一時十八分黑磯行 △佐々木龍若氏 同日午後四時卅六分笠岡より歸平 △大平陸四郎氏 二日午前十一時一分來平

# なだんが安くて 漁業家なかせ

## 大資本化の必要を痛感 漁獲最高は江名萬盛丸

最近石城各漁業家の経営法が大資本化してきたことは既報の如くであるが去月三十日秋刀魚を最後に終了した今年夏期漁業における江名町の

### 成績をみると江名漁業組合員所有の漁船中漁獲高の多いのは左の如く本年度優勝旗は加澤一造氏所有の萬盛丸に歸した

- 萬盛丸(加澤一造所有) 三〇〇〇〇圓内外
- 清勝丸(佐藤清八所有) 二四〇〇〇圓内外
- 榮福丸(澤助右工門所有) 二四〇〇〇圓内外

は殆んど少なく一般に取引相場が値安であつた事に因するものであると

### 役場移轉内祝ひ

平町役場として模様替へ中の元商業学校は既報の如く講堂であつた新會議室も玄關脇に移轉され又舊廳舎前にあつた記念の老松二本も移植をへ新廳舎も大半模様替へしたので町當局では昨日と三日の日曜並に祭休日を利用して移轉中であるが三日は午後一時から新會議室で吏員町議だけで心ばかりの移轉祝をする筈である

## 列車と乗合側面衝突

### きのふ夕方湯本地内で 助手は人事不省

昨日午後四時半頃石城郡植田町磯上自動車店の湯本町行定期乗合自動車福島三五三號運轉手磯上重忠(三)助手榎八郎(三)は湯本町大字關船字諏訪下三三内地内國道を疾走中藤原炭礦私設線踏切に差懸つた折湯本驛へ進行中の貨物列車と

側面衝突をなし自動車は轉覆機關部を滅茶々に破壊したが幸ひに乗客は一人もなかつたので大事に至らず運轉手は奇蹟的にも何等異状なく助手の横は轉覆と同時に頭部を強打し腦震蕩を起し人事不省となつて倒れたので直に附近

### 醫院に 容し手當

加へたが原因は同私設線は平常餘り荷車の往復がないので不注意のまゝ自動車も飛ばして此の難に遭つたものらしいと尙自動車の損害五百圓である

### 下駄で滅多打ち

平町白銀町福住旅館番頭久野源吉(四)は三十一日夜十時頃同町松崎旅館番頭安達辰夫(三)と同町丸清旅館端で飲酒して居たが泥酔の結果平常の商賣仇から些細の事をきっかけに喧嘩となり辰夫の頭部を下駄で滅多

## 鎌田山附近で 十八娘襲はる

### 大聲を立てられて 九十錢強奪逃走す

石城郡神谷村大字上片寄彌助長女片寄トキ(八)假名が去る三十一日午後六時頃野菜賣りの歸途同村地内鎌田山附近に差しかけた際傍らの暗がりから労働者体の怪漢が飛び出し懷中に手を入れ九十錢在中の褌口を強奪し更に暴行を加へんとしたが大聲をたてられたのでその儘逃走した先頃赤井村文平原地内にも同様な事件あり平署では躍起となつて犯人捜索中である

## 郡下學童たちの 目覚ましき飛躍

### 優秀な成績を残し 第一回競技會終る

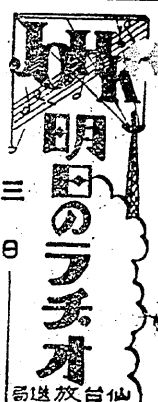
石城教育會主催第一回郡下児童競技會は昨日午前九時より高月臺グラウンドに集つた郡下三十七校の代表選手によつて大接戦を演じいづれも優秀な成績を残したが當日の各種目優勝者は次の通りである

- 弘子(尋六)平二五十嵐キ
- 武司(尋六)小名濱根本久
- (高一)女)勿來大平久子
- (高一)女)江名吉田エン
- (高一)男)草野新妻
- (高一)男)内郷川口健藏
- (高一)男)平第二
- (高一)男)小名濱
- (高一)女)小名濱

## 濱三郡 教員庭球大會

濱三郡教員庭球大會は明日午前十一時より磐城高等女學校コートにて開催されるが参加校及チームは左の二十三組であると

- △壘屋職人 年廿五才(平町居住)
- △土工廿四才 同上
- △海産物店員 廿八才
- △種商業卒業(小名濱町)



### 明日の部

今晩は北西の風曇り明日は北東の風曇り午後より晴れ

### 今晩の部

- 後六、〇〇 唱歌劇とハ
- モニカ熊本ハモニカ協
- 後六、三〇 英語講座「初
- 等科(二十二) 寺西武夫
- 後七、五〇 米國野球團歡
- 迎の夕(讀賣新聞社主催)
- 後八、〇〇 (吹奏樂)陸軍
- 戸山學校軍樂隊
- (講演)市岡忠男 警原喜
- 重郎 米國代理大使 安部
- 磯雄 米國選手 松本龍藏
- (獨唱合唱及管絃樂)平井
- 美奈子 内田榮一 ジョカ

### 明日の部

- 前七、〇〇 日米交際放送
- 前九、三〇 奉祝唱歌
- 女子放送合唱團
- 前一〇、〇〇 記念講演
- 大元帥としての明治天皇
- 陸軍少將竹内榮喜
- 前一一、二〇 運動競技
- 後一〇、四〇 放送舞臺劇

### 椎茸栽培實習

郡永戸養輪組合の農會では近く組合員の椎茸栽培實地指導講習會を同村渡戸小學校に二日間開催するが郡農會から青山技手が茸木伐採の期に出張實地指導する筈

中焚火したのが藁に燃え移つたので損害八十圓である

### 求人部

△商店雜役 年廿三才以下住込八圓位(平町仲町製米所)

△活動辯士 廿歳前後 給料面談(平町四丁目興業部)

△求職の部  
△壘屋職人 年廿五才(平町居住)  
△土工廿四才 同上  
△海産物店員 廿八才  
△種商業卒業(小名濱町)



# 小説 七五郎

(七十五)

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

【載轉禁】

## 狼の足跡 (5)

千代子はこの話を今更初めて耳にした時ほんやりとして呆れ返つた、而して靜かに目をみはつた

『あの男はたしか奥さんが手引をして入れたんですつてね』

『え、私はよくその初まりを知らないが、なんでもお父さんにもお頼みしてあのお母さんがお世話なすつたと言ふ話だわ』

『すると、こいつあ變ですぜ、なんでもあの奥さんとは一ツ穴の……ね、然う見なけりやうぞです、平生どんな具合でした、二人のなかは』

然う問はれて千代子は聊か答へに憚んだが、記憶を辿つて見るとひし／＼と思ひ當る事がないでもなかつた

『然うね、まあ感情がびつたり合つてゐたと言つた方がいゝでせうよ、二人ツ切で一つ室に入つて、よくひそ／＼と話し合つてゐるところを折節見かけたがらぬだから、屹度話はいつもお互に何にか出来て居たのかも知れないね、随分酷い方ね、驚いたわね』

『ウム、それだツ、それだ』



清作は手を前つた

『そう言へばさうですよ、今日奥さんが朝早くから手廻りの品をさらひ集めて、素捷く磯子に逃げ出して、きなすつた事なども、さへ』

『松棒ぢやないか、泥棒だから泥棒だと言つたのが何故悪いのかね』

真面な素肌の上に眞珠の首飾と薄い水色のかけぎぬ

でえ……』

『え——』

千代子は懐然と身顛ひし扉の外に立つた女は化石したやうな體を戸に擦着けて、呼吸を殺しながらじつと何事かを窺ひ知らんとするものゝ如く耳を敬てゐた

て見りやあ別段不思議はごあせんやを成るべきがあたりまでございませうね

然うでせう、川島の差金だと見たら何でもなし談だ

『……』

『お嬢さま、こりア何ですせ、事に依つたら二人馴合の仕事だかも知れませんぜこの十文字家を讀んでしよう

をすつと流したばかりの薄氣味の悪い顔をしたヨウラマは薔薇のふた葉のやうな唇をきつと結んで星と輝く眼にしばらくじつと源之助を睨み据えてから昂奮した調子で恚う罵りかへしたのである

『失敬なことを言ふなアツお、女に馴染んで、か、金』

を使つたりだ欺されて金を捲揚げられたりするを、泥坊といふのかツ、そんな名詞は世界中のどここの國を探したらあるのだツば、莫迦ツ』

縛られた針金は強く血管を壓迫され、ほとんど感覺がないまでに手足が痲痺し切つてゐた源之助は喘む呼吸の下からどもりどもり叫んでそして殊更にせゝら笑つて見せた

『高慢痴氣なことをお言ひでない、一体お前は此の家に来てからいくら使つたのさ、日本中の財産を一人で背負ひ込んでるやうな大きな太平樂をならべてゐたのはいゝが、お金を出すことゝなつたらまるで水の切れた浴室の蛇口もよろしくタラ／＼のポタリ／＼は全く笑はせるぢやないかね、ハ、ハ、ハ、』

御用命は印刷物の總代理

常警日印刷株式會社

電話三六〇番

難波醫院

平町新川町

【釜屋新宅向】

電話五〇二番

お醤油は……ヤマフル

醬油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品

鹽屋 合名會社

電話 福島縣平野町 釀造工場二七番

專門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します

往診 呼吸器病ばかりではありません

平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之  
女醫 川井安子

電話一八一番

醫學博士 廿推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症  
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかす無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

福島縣平野町五ノ廿八

志賀齒科醫院

福島縣平野町白銀町九

産婆 關口悦子

表價定

金拾參圓 藥及特効藥五週分付  
金拾圓 藥及特効藥五週分付  
金拾圓 藥及特効藥五週分付

吉田眼科病院

平野町、電話六八番

時計眼鏡

トキワヤ

平一・電三三九

毛糸と編物用具

全部新色三二一

入荷致しました

相變らず御用命の程……

平野町

ハシモトヤ

糸店